

研究主題

生徒一人一人の主体性を伸ばす

学習活動・特別活動の研究

「互いを認め高めあい、自ら考え行動できる生徒を目指して」



平成29年1月18日 (水)
ふじみ野市立大井西中学校

あいさつ

ふじみ野市教育委員会
教育長 朝倉 孝

大井西中学校を訪れると、たくさんのお花々と生徒たちの明るく元気な挨拶で迎えてくれます。そして、学習や部活動に熱心に取り組む生徒たちの生き生きとした姿が目に見えてきます。これは、石川 和明 校長先生を中心に、全職員が一体となり、生徒一人一人を大切にしたい教育活動に取り組んでいる賜物です。

本年度、大井西中学校では、埼玉県「いじめ防止のための人間関係づくり」研究指定及びふじみ野市教育委員会委嘱を受け、「生徒一人一人の主体性を伸ばす学習活動・特別活動～互いを認め高めあい、自ら考え行動できる生徒を目指して～」を主題として、研究を進めてきました。アクティブラーニング等を用いた学習活動や話し合い活動を中心とした学級活動、異年齢集団活動を特別活動において積極的に取り入れ、全ての生徒に意図的・計画的に活躍の場を与え、生徒が生き生きと学ぶ授業の創造を目指したものです。いじめ防止のための人間関係づくりを目指した大井西中学校の先進的な取組は、ふじみ野市をリードする研究となっています。今後も、この研究を一層発展させ、生徒が主役の学校づくりにつなげていくことを期待します。

終わりにあたり、研究に携わった 石川 和明 校長先生をはじめ教職員の皆様のご苦勞に対し、深く感謝の意を表すとともに、温かいご指導をいただきました 元文部科学省初等中等教育局視学官 宮川 八岐 先生をはじめとする指導者の先生方、学校を支え見守ってくださった地域の方、保護者の皆様にお礼を申し上げ、あいさつといたします。

ふじみ野市立大井西中学校
校長 石川 和明

人は人との関わりの中でのみ、人として成長します。人は人と言葉を交わし、心を通わせていくことで、互いに理解し合います。励まし合うこともあります。時にはいさかきもあります。そんなじっくりとした語り合い、関わり合いなくして、人は人として成長できないと考えます。

本校では、本年度ふじみ野市教育委員会の委嘱研究として、「互いに認め高めあい、自ら考え行動できる生徒を目指して」の研究に取り組んでまいりました。特に、主体的、協働的な学び合いや話し合い活動等の特別活動の充実を図ってまいりました。生徒同士の関わり合いの中で互いの人間関係をより良いものにさせる取組です。研究は始まったばかりであり、研究が進めば進むほど新たな課題に直面します。今後は一つ一つ課題の解決に向けて、今までの研究をさらに深めてまいります。

最後になりましたが、元文部科学省初等中等教育局視学官 宮川八岐 様、ふじみ野市教育委員会教育長 朝倉 孝 様 をはじめとする教育委員会の諸先生方には、貴重なご助言を賜り深く感謝申し上げます。今後も、本校の教育活動に対しまして、広くご指導・ご鞭撻をいただきたくお願い申し上げます、あいさつとさせていただきます。

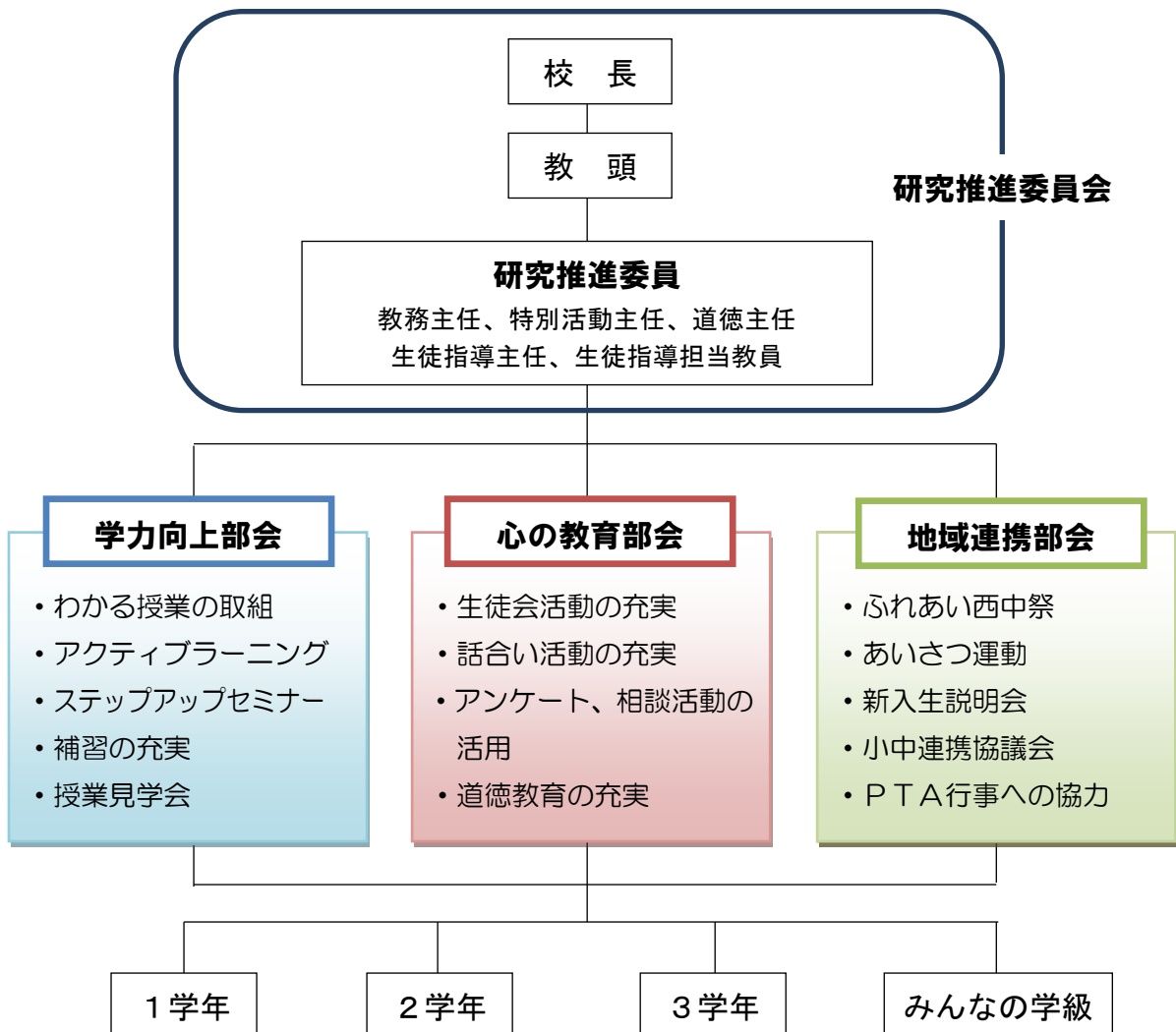
1 主題設定の理由

いじめをめぐる問題への学校の対応や解決に向けた取組は、最近の学校教育において喫緊の課題となっている。いじめは重大な人権侵害であり、これまで本校においても「学校いじめ防止基本方針」に基づいた取組や毎月末の生活アンケートの実施、人権教育の推進等、様々な活動を行ってきた。本校では、研究を進めるにあたり、いじめ問題の防止に向けた取組のみを扱うのではなく、改めて「学校＝学びの場」という認識のもと、安心・安全な環境で、生徒が様々な人との関わりを持つ中で、個性を伸ばせるよう、「学力向上」「心の教育」「地域連携」の3つの視点から、それぞれ取り組むこととした。3つの視点において、特に学習活動と特別活動の面から生徒の主体的な活動や互いを認め高めあえる場面を意図的に設定する等の具体的なアプローチをすることで、個人の自己有用感を高めるとともに、望ましい人間関係が構築できるはずである。それらの取組の積み重ねにより、学校全体として、いじめの未然防止、解決していくことのできる集団を育成できると考え、本研究主題を設定した。

【研究の仮説】

アクティブラーニング等を用いた学習活動や話し合い活動を中心とした学級活動、異年齢集団による交流を積極的に取り入れて実践することで、生徒同士が関わり合いながら、主体的な活動を促すことができる。また、生徒が互いを認め高めあえる場面を意図的に設定し、働きかけることで、望ましい人間関係が構築されていき、いじめを未然防止できる集団が育成されるはずである。

2 研究組織



3 本年度の主な取組

学力向上部会の取組

①ステップアップセミナー



昨年度までも本校の学力向上策の中心的取組であった「ステップアップセミナー」を継続して今年度も実施した。昨年度までは国語と英語の2教科において難易度別に級を設けて行っていたが、今年度は5教科で初級・上級問題の2種類の問題を用意した。毎月末の1週間を「ステップアップ週間」とし、朝読書の時間を学習の時間に充て、週末の2日間でテストを行った。テスト初日は全員初級、合格者は2日目に上級を受ける。上級合格を目指し、多くの生徒が意欲的にテストに臨んでいた。

②補習の充実

定期テスト前の補習、長期休業中の補習、ステップアップセミナー初級に合格できなかった生徒への特訓講座等、基礎基本の内容を中心に5教科で補習を実施した。特に定期テスト前の補習では多くの生徒が参加し、教え合いもしながら学習する姿が見られた。

③わかる授業の取組・授業見学会の実施



わかる授業の取組として、アクティブラーニングの手法を用いて生徒同士の学び合いや教え合いを各教科で積極的に行っている。学習に自信のない生徒にとっては、こうした関わりの中でより意欲的に学習したり、理解が深めたりすることができた。また、期間を設けて教員同士で授業を見合う授業見学会も実施した。同じ教科だけでなく、普段はあまり見ることもない他学年や他教科の授業も見学するよい機会となった。

心の教育部会の取組

①学級活動における話し合い活動の推進



学級会グッズを年度初めに全クラスに配布し、それを活用した話し合い活動を推進した。司会グループへの事前指導を大切にし、輪番制にすることで、どの立場の気持ちもわかるような心の育成をした。自分もよく、みんなもよい学級生活づくりを意識した話し合い活動の積み重ねができた。

②生徒総会での異年齢集団活動についての討議



生徒総会の中で「楽しく豊かな学校生活にするための異年齢集団活動しよう」という議題で各学級から事前に出された意見について賛成・反対意見を述べる場を設け、3つの活動を行うことを決めた。また、活動の際の約束事も話し合っ

③学年道徳の実施

本校は学年で同じ時間に道徳の時間を実施している。それを生かし、2学期を中心に学年道徳を行い、学年の実態に即した題材を選び、全員でじっくり考える時間を設けた。

④学期末における縦割り大掃除の実施



生徒総会で決定した異年齢集団活動の1つとして、学期末の大掃除を縦割りにして実施した。3年生がリーダーとなり、担当教員と事前打ち合わせをし、分担や活動内容等を考え、スムーズに清掃が行われるようにした。清掃後は体育館で全校集会をしてまとめの時間も確保した。通常の清掃以上に無言で熱心に清掃する姿が多く見られた。

⑤いじめについての講演会&「いじめについて考える」全校集会



12月に講師の方を招き、いじめについての講演会を実施した。また、その翌週には生徒会が中心となって、「いじめについて考える」全校集会を行った。集会の事前指導として学級での意見発表会でいじめ防止のために大切なことを話し合い、集会では生徒総会と同じ方式で全校の前でいじめについて自由に意見を述べる場を設ける等をした。多くの生徒が意見を述べる事ができた。

⑥LINEワークショップ授業の実施（1学年のみ）



今年度は1年生を対象に、ゲストティーチャーとしてLINE株式会社の方を招き、ワークショップ形式でインターネットやスマートフォンの正しい使い方について授業を実施した。日常の自分の使い方を見直すとともに、人間関係についても考えるよい機会となった。

地域連携部会の取組

①JRC活動・PTA行事・小中連携



毎月のみよし園訪問や募金活動等のJRC活動、除草作業や花の植え替え等のPTA行事、合同あいさつ運動等の小中連携。これらの取組に生徒会や部活動を中心に多くの生徒が積極的に参加することで、地域との交流を図ることができた。

②ふれあい西中祭の実施



本校の代表的な行事の一つ。地域の方を中心に講師として招き、体験学習や講演会を行ったり、食品を中心としたPTA販売を行ったりした。様々な地域の方とのふれあいの中で生徒は意欲的に行事に参加し、特に体験学習では普段はなかなか体験できないことに真剣に取り組む姿が多く見られた。

研究の成果と課題

【成果】

- アクティブラーニングの手法を用いた学習活動や話し合いを中心とした学級活動を全学級で意識して展開したことで、生徒の主体的な姿が以前よりも多く見られるようになった。
- 生徒の主体的な活動や異年齢集団活動により生徒同士の交流が活発化し、リーダーシップやフォロワーシップを育成することができた。また、来年度以降の取組の新たな土台を築くことができた。



【課題】

- 来年度以降も引き続き、主体的な活動を中心とした学習活動・特別活動を展開できるよう、年間指導計画に位置付けられるようにする。
- 本研究の中で実践した様々な取組がより効果的なものとなるためには、さらに規範意識を高め、学力を向上させることに重点を置いて取り組む必要性も感じた。これまでの成果を生かし、工夫と改善に努めていく。
- 小中連携の中で、9年間を見通した取組を推進していくようにする。



ご指導いただいた先生方

元文部科学省初等中等教育局視学官

ふじみ野市教育委員会教育長

ふじみ野市教育委員会学校教育管理監

ふじみ野市教育委員会学校教育課長

ふじみ野市教育委員会学校教育課指導主事兼学校管理係長

ふじみ野市教育委員会学校教育課指導主事兼指導係長

ふじみ野市教育委員会学校教育課学校管理係指導主事

ふじみ野市教育委員会学校教育課指導係指導主事

ふじみ野市教育委員会学校教育課指導係指導主事

ふじみ野市教育委員会学校教育課指導係指導主事

宮川 八岐 様

朝倉 孝 様

朝倉 美由紀 様

榎本 崇 様

金子 文雄 様

清水 篤史 様

鈴木 達也 様

石川 聖徳 様

國井 創 様

須藤 大二郎 様

研究に携わった教職員 (◎研究主任 ○研究推進委員)

校長 石川 和明

教頭 中村 延弘

○鈴木 健太郎 渡辺 尚司 川出 道子 真田 加奈子 本橋 将人

○竹内 寛人 八丈 明 永井 英恵 ◎山本 奈美 八木 栄治

浅田 清志 田代 浩之 ○石橋 雅晴 石川 真弓 御菩薩池 晶

○川内 紗貴 村田 裕樹 西牧 大 助川 大介 森 あすか

松本 幸江 金子 美穂 森田 翔 平吹 旭 日高 和子

中野 浩美 吉川 寧 榎本 圭一郎 村上 雄紀 山崎 如子

アーサー・ラサム